試合に係る遵守事項

＜コンプライアンス遵守＞

ルールを守り、他人を思いやり、自ら考え、自ら行動できる選手を育成することが、ティーボールの理念です。本大会では、選手の指導等に暴言等のハラスメントは固く禁止します。

1.（試合）1回戦は、勝敗に関係なく全試合3イニングの裏まで完全に行います。2回戦以降は2イニングで実施し、勝敗が決した時点で試合終了となります。

2.（ベンチ）組み合わせ番号の若い方のチームが1塁側になります。

3.（ビブス）先発メンバー10人は打順通りの1～10番のビブスを付け、11～20番も控え交代選手としてビブスを付けます。ビブスは試合終了まで付けたままで、途中で取り替えたり、取り外したりはできません。

4.（選手交代）代打、代走、守備交代はいつでもできますが、再出場（リ・エントリー）はできません。

（注記）ティーボール競技規則（3－3）の「登録されている選手は1試合に付き1イニング以上出場するか、または、1度だけ打撃を行わなければならない」のルールは本大会では採用しません。

5.（守備位置）①打者が打撃するまでは、1・2塁間及び2・3塁間の仮想線の後ろで守備しなければなりません。

②本塁手は右・左打者にかかわらず、打者が打撃を完了するまではバッターズサークルの外側で、バッティングティーの後方（2塁と本塁を結ぶ線上）で守備しなければなりません。

6.（バッティングティー）あらかじめストライクゾーンの高さに調整してあるので、高低の調整はできません。

7.（打者）バットの放り投げは、デッドラインを越えるか、または危険な行為と球審が判断した際はアウトになります。

8.（最終打者と残塁者の扱い）最終打者が打撃を行い、そこで、アウトになった打者走者か走者以外の選手が次回の残塁者となります。

また、毎回攻撃終了時に、得点および残塁状況を球審と記録員が確認し、両チームのベンチにも告知・共有します。

9.（最終回最終打者の扱い）最終回最終打者のとき、通常のアウト（各塁でのフォースアウト・タッチアウト・フライアウト）の他、ボールを保持した守備者が本塁ベースを触塁した時も、審判は「アウト」を宣告します。

10.（同点時のタイブレークと抽選）① 1回戦の時 同点の場合はタイブレーク大会特別ルールを採用します。前イニングの出場選手の8・9・10番打者を3・2・1塁走者満塁とし、1・2・3番打者の3人が打撃しま

す。表裏の攻撃を行って勝敗を決めますが、さらに同点の場合は4・5・6・7番打者4人での抽選を行います。（タイブレーク1回採用）

② 2回戦以降の時 1回目のタイブレークが同点の場合、さらに前イニングの出場選手の1・2・3番打者を3・2・1塁走者満塁とし、4・5・6番打者の3人が打撃します。これで勝敗がつかないときは、7・8・9・10番打者4名で抽選を行います。（タイブレーク2回採用）但し、決勝戦は、勝敗がつくまでタイブレークを採用します。

11. （ファール：違反） 打撃時に、軸足が2歩以上の移動、並びにバントやハーフスイング、及びプレイ宣告後10秒たっても打撃をしないと「ファール」が宣告され、ワンストライクとなります。ツーストライク後に行うと「アウト」になります。

12. （打撃チームへのお願い） ベンチ内で打撃順に並んで待ちます。次打者は先頭でボールを持ち、待機します。原則として、打者が自分でバッティングティーにボールをセットしてください。

13. （アスクと選手交代） アスク（質問）できる者は原則として主将または副将のみです。選手交代を告げるのも、主将または副将のみです。

14. （試合前後の挨拶） 両チーム全員が、バッターズサークルに沿って整列し、挨拶を行ないます。

15. （審判） 3人制審判で行います。（球審、1塁塁審、3 塁塁審）

16. （救護・サポーター）救護・サポーターを配置（5名以上登録選手数以内）します。救護・サポーターは、当該チームから保護者等の方を選出いただき、ベンチ横にて、試合中の選手の健康管理や緊急事態時の対応にあたっていただきます。

17. （その他）

① 打順表（オーダー表）の提出の必要はありません。
② ランナーコーチを置くことはできません。
③ 応援は、声援のみの応援とします。
④ 大会の様子の写真など、日本ティーボール協会のホームページ、関係広報誌、新聞掲載などで使用させていただく場合がありますので、あらかじめご了承ください。
⑤ その他のルールについては「公認ティーボール規則」に準じます。
⑥ 金属スパイク着用は禁止します。

安全に関する注意事項

（1） いかなる場所においても、バットを持って素振りをすることは禁止します。
（2） タッチプレーによる走者と守備者の接触にはくれぐれも注意してください。